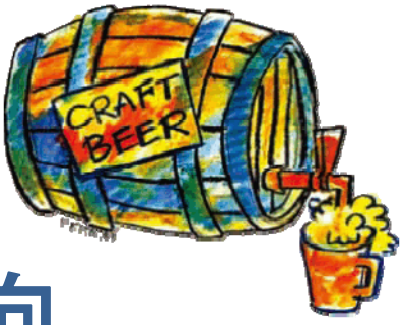


日本のクラフトビールの動向

■国内のビールマーケット　■大手とクラフト
■日米クラフト比較　■近年のトピックス　■輸出の取組み

Japanese Craft Beer Market Analysis 2018

＠2018年5月　ed.3.2

Introduction & Acknowledgement

2018年2月23日、名城大学で、クラフトビールに関する講演を行う機会がありました。
（主催：JETRO名古屋・名古屋国税局）
それを機に、数年ぶりに統計情報や海外情報をアップデートしたので、
その要旨の抜粋を公開資料としてまとめておきます。
（アメリカのクラフト統計については最新情報に入れ替え）

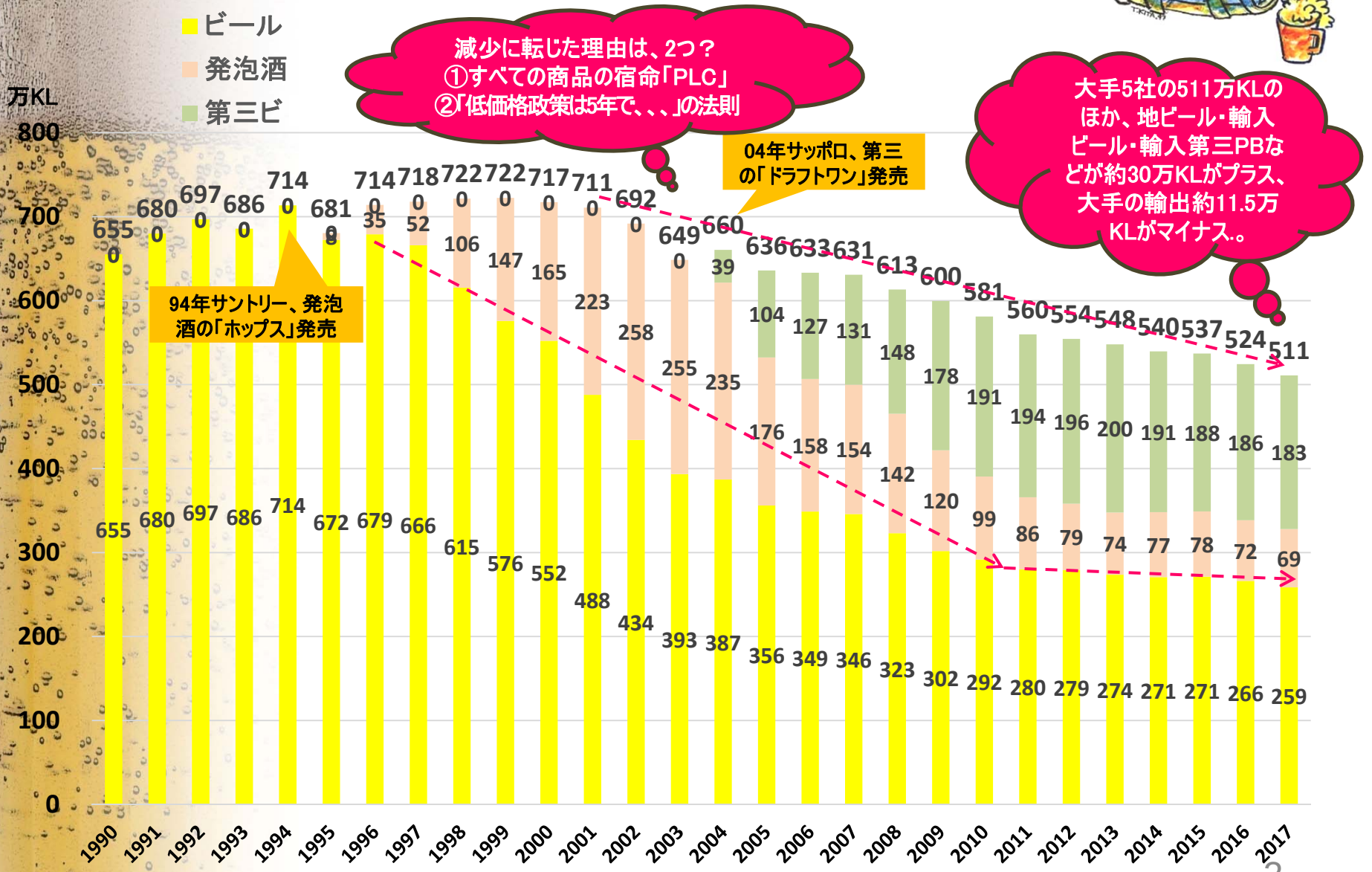
当社は日本の大手ビール各社、
多くのクラフトビール醸造所の皆様とお取り引きいただいています。
このような資料を作成するのは、皆様にお取り引きいただいているが故で、
改めてビールのお取引各社に感謝の意を表します。　（ text: 喜多常夫 18.05.09 ）

KKきた産業株式会社
KITA SANGYO CO., LTD.

Beer Production volume over view #1, Q. Century

Total of Giant 5 players i.e. Asahi, Kirin, Suntory, Sapporo & Orion. Excludes Crafts & Imports

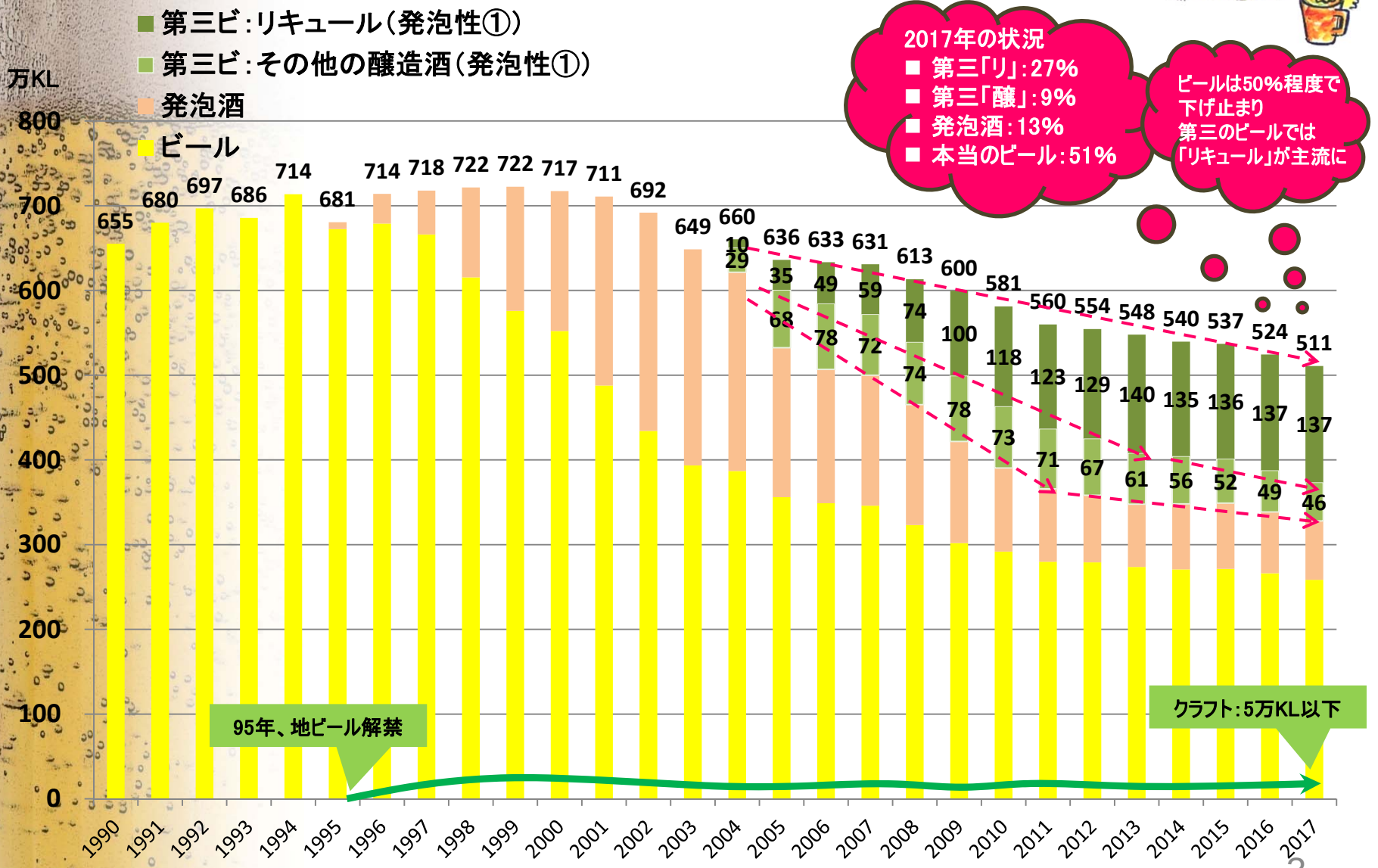
（ビール酒造組合の大手5社のみ）出所：ビール酒造組合＋発泡酒税制を考える会



Beer Production volume over view #2, Q. Century

Total of Giant 5 players i.e. Asahi, Kirin, Suntory, Sapporo & Orion. Excludes Crafts & Imports

（ビール酒造組合の大手5社のみ）出所：ビール酒造組合＋発泡酒税制を考える会＋当社推定



2017年の状況
- 第三「リ」：27%
- 第三「醸」：9%
- 発泡酒：13%
- 本当のビール：51%

ビールは50%程度で下げ止まり
第三のビールでは「リキュール」が主流に

10年刻みで見る日本の酒類の半世紀

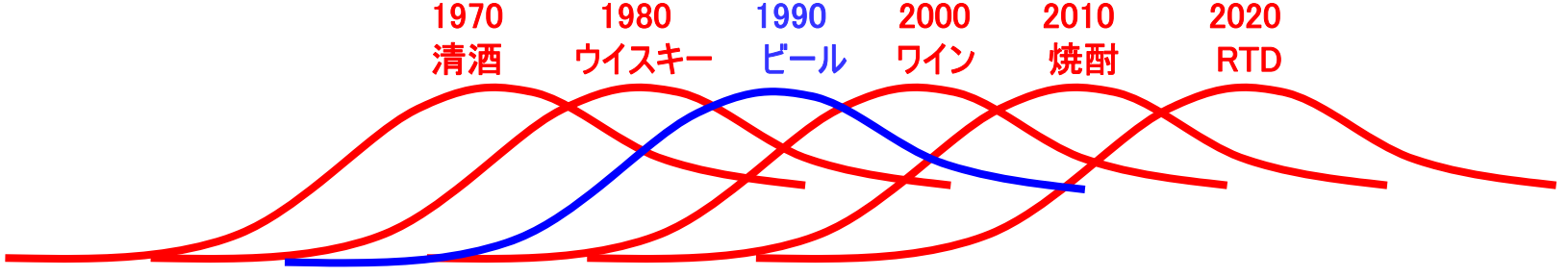
★は10年刻みで見た最大出荷年　*は1962年の数字（国税庁統計で、ウイスキーが独立し、焼酎甲類と乙類が分かれたのは1962年から）

	出荷量（単位：万KL　）							実際の最大出荷年、出荷量	最大出荷に対する2010年の割合
	1960年	1970年	1980年	1990年	2000年	2010年	2020推定		
清酒	75.1	★160.1	147.3	142.2	99.9	60.3	50	1973年、176.6万KL	34%
ウイスキー	5.1*	13.4	★33.1	18.9	11.5	8.1	★12	1983年、37.9万KL	21%
ビール	93.2	298.1	452.1	★649.0	538.9	292.0	250	1994年、713.5万KL	41%
ビール＋発泡酒＋第三ビ	93.2	298.1	452.1	649.0	★717.3	581.2	500	1999年、[illegible]万KL	80%
ワイン	3.4	3.1	5.1	7.9	★11.6	8.8	★15	1998年、15.8万KL	57%
本格焼酎	4.3*	5.2	10.7	23.5	33.7	★50.8	40	2007年、56.9万KL	89%
RTD	…	…	…	…	30	40	★80	…	…

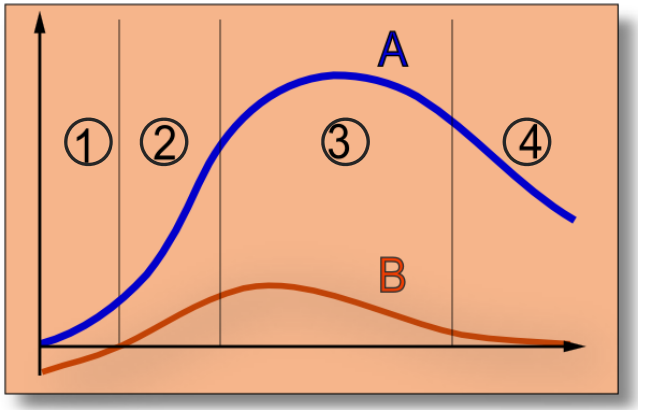
ブーム再来

酒税変更の影響

ブーム再来



国内酒類マーケットの~~3~~2法則

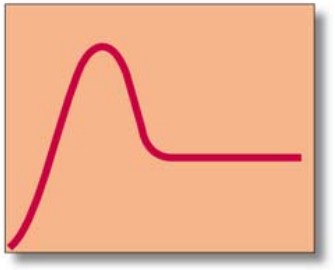


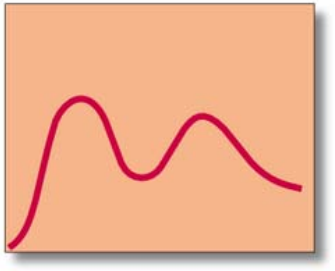
その1. 「プロダクトライフサイクルの典型カーブが当てはまる」

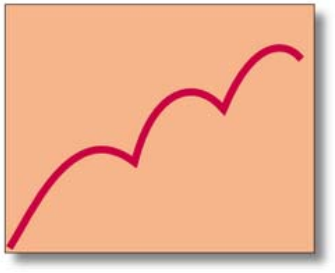
- Product life cycle（製品ライフサイクル）とはマーケティング用語の1つで、製品が市場に登場してから退場するまでの間を指す。典型的には4つの段階「①導入期・②成長期 ・③成熟期・④衰退期」より構成され、この間のA売上・B利益の変化に着目して、マーケティング戦略を構築する。

✓ 「山形（典型）」カーブ→清酒、焼酎
✓ 「成長急落成熟」カーブ →ビール類
✓ 「サイクル・リサイクル」カーブ→ウイスキー
✓ 「波形」カーブ→ワイン

などがある。（wikipediaから）







その2. 「低価格政策は、5年以内に市場を縮小させる」

~~その3. 「大手への集中度が高まる法則」~~

■ほかに「先進国における伝統酒逓減の法則」「グローバル化に伴う酒類多様化の法則」「アルコール摂取量減少の法則」がある。
■例外もある。
■世界マーケットでも、3法則がある程度は成立する。

国内酒類マーケットの法則、その2
「酒類の低価格政策は、5年以内に市場を縮小させる」

- 「価格弾力性」: 製品の価格変動によって需要・供給が変化する度合い
  10%値下げしたとき需要が10%増えたら、価格弾力性は「1」
  10%値下げしたとき需要が5%増えたら、価格弾力性は「0.5」

- 2017年6月、酒税法で酒の安売り規制が強化されて、缶ビール店頭価格が10%程度あがった。 6月以降はビール需要は約10%落ち込んで、その後なかなか回復していない。したがって、「ビール」の値上げ価格弾力性は、瞬間的には「1」くらいだと推定できる。値下げのときの価格弾力性も「1」に近いが、値上げと違って2～3年で「0」そしてやがて「マイナス」になると考える。

- (証例1) ビールより安い「発泡酒」がでた直後、さらに安い「第三のビール」が出た直後は需要が増えたが、そのあと5年以内に総量減に転じた事実。

- (証例2) 英国のサッチャー首相の肝いりで、1980－90年代に日本の蒸留酒の酒税が変わった。ウイスキーは値下がりしたが、需要は増えず、長期にわたって低迷。一方、本格焼酎は値上がりしたが、案に相違して、21世紀初めまで需要が漸増した。嗜好品であるお酒は、20世紀末からすでに、「値下げすれば需要がかえって減る」「値上げしたものがかえって売れる」つまり「逆進的価格弾力性」があったと考える。

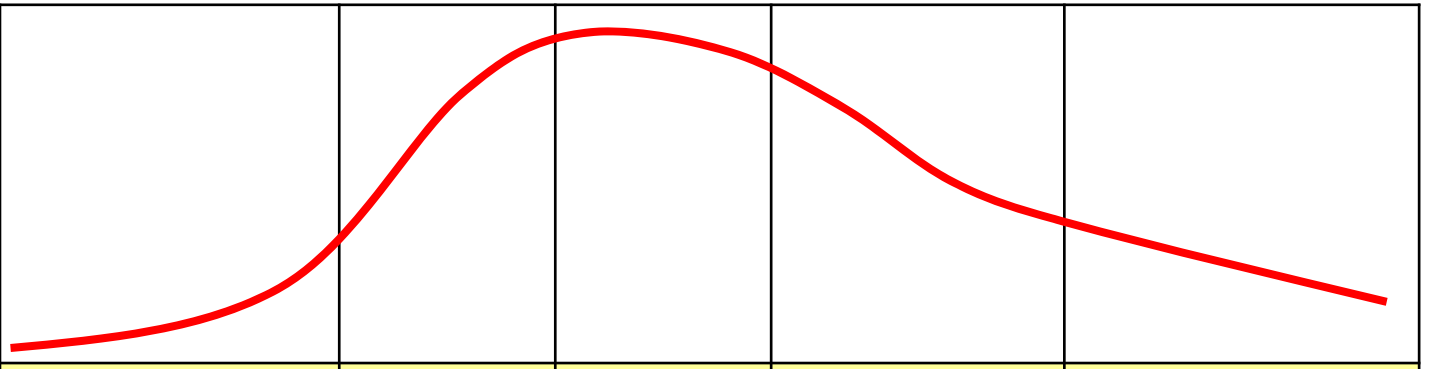
- (証例3) 清酒の「紙パック(安売り商品が中心)発売と清酒需要低減」のグラフは、ビールの「(安価な)発泡酒・第三のビール発売と需要減」のグラフと同じパターン。

- 「酒類の低価格政策は、5年以内に市場を縮小させる」

- 「クラフトビールは高価格だからこそ売れる」

「衰退期」に起こるブレークスルー → 「クラフト」「プレミアム」

マーケティングの教科書に載っている一般論



製品ライフサイクル	発生・導入期	成長期	成熟期	衰退期 I	衰退期 II
価格政策	コスト志向価格 上澄吸収価格	市場浸透価格	競走志向価格	価格引き下げ	
流通チャンネル	選択的	開放的	開放的	選択的（利益の出る販路のみ）	
	●スターバックスの事例：最初は自社店舗のみ→一部のコンビニでチルド製品販売→現在は多くの流通で購入可能				
広告	初期採用者に認知度を築く	多くのターゲットに関心を	ブランドを強調	中核ファンの維持に必要なレベルに縮小	
ビール				低価格化： ●発泡酒 ●第三のビール ●(RTDへ流出）	多様化、あるいは高価な商品： ●プレミアムビール ●クラフトビール ●輸入ビール
（参考）清酒				●紙パック	●地酒ブランド ●スパークリング ●海外輸出

Premium segment by 4 Giants, 2007 → 2017

- ✓ ヱビスのベース、2007年ごろからのプレモルの急増に端を発し、現在はプレミアセグメントが、ビールの15%程度、ビール類全体で7%程度
- ✓ 苦味を避ける傾向、甘くなってきている？
- ✓ アサヒ（スーパードライ）以外の3社はオールモルト（麦芽100%）戦略（例：キリンは「ラガー」より「一番」）
- ✓ プレミアムの、さらに上のプレミアムも登場
- ✓ 10年経過した2017年、「プレミアム」はやや勢いを失ったように見える。

パッケージからみた酒類トレンド：プレミアムで、ビン入り、小容量

- ✓ キリンとサントリーが「缶」ではなく「びん」戦略
- ✓ 350でない缶、330や334ではない壜
  - ➢ サントリーのプレミアムモルツの缶→（350ml もあるが、コンビニで）330ml
  - ➢ サントリーのマスターズドリームの壜→305ml
  - ➢ キリンのシングルモルトの壜→305ml

Craft Beer Breweries Count, 1995 → 2017

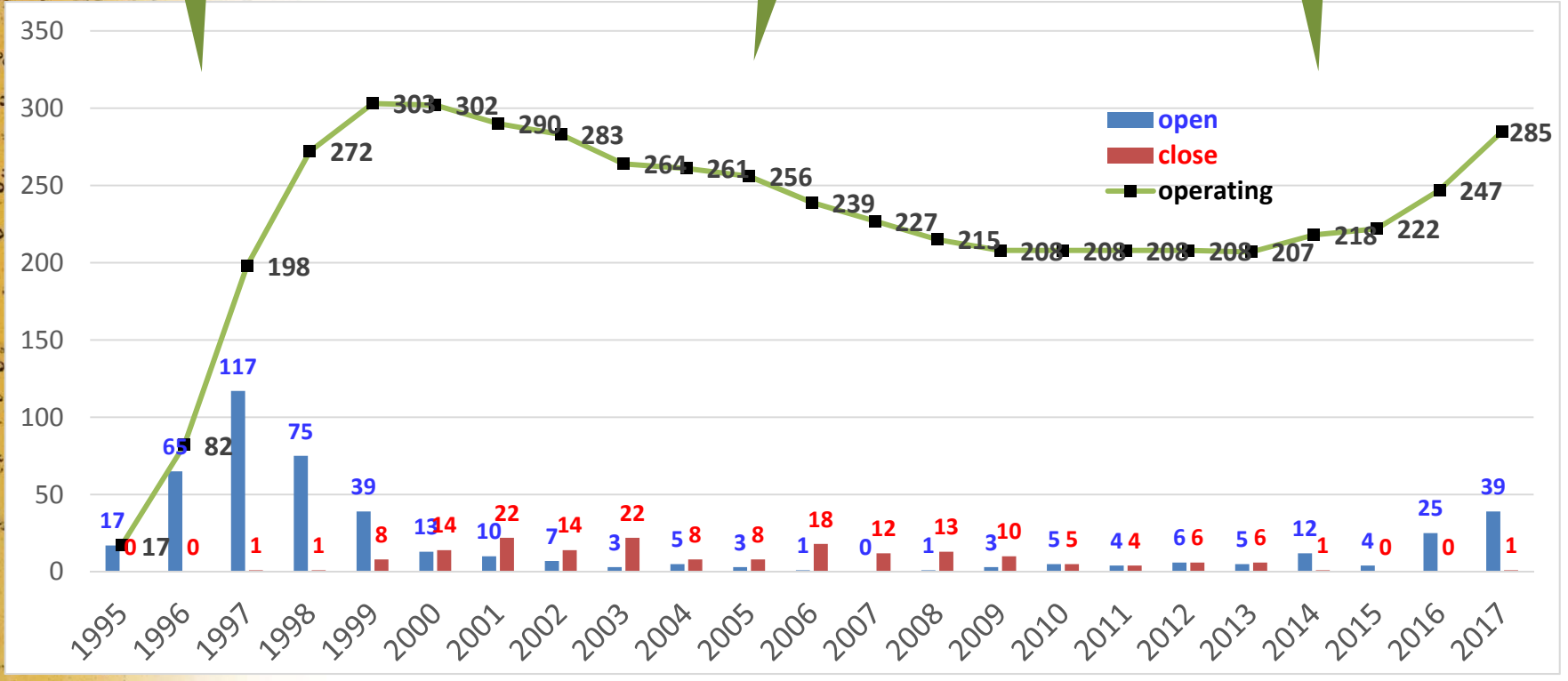
Researched by Kita Sangyo Co.

■1995～1999年：急増の5年■
平均開業：　62.6軒/年
平均閉店：　2.0軒/年

設備資金に1～3億円をつぎ込んだ時代。
ピークの99年には303社が操業。

■2000～2009年：淘汰の10年■
平均開業：　4.6軒/年
平均閉店：　14.1軒/年
実は美味しくない地ビールが多い、と言われた時代。大手ビールで「発泡酒」のシェアが増加し、さらに安価な「第三のビール」が出現した時代でもある。
10年間で141社閉店、10年で300社強から200社強に。生き残った醸造所、新規参入では味や品質の改善が進んだ。

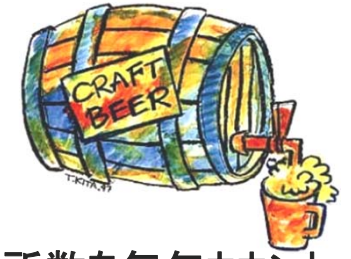
■2010～現在：再興の時代■
平均開業：　12.5軒/年
平均閉店：　2.9軒/年
ビール品質が全体として安定、世界的なクラフトビールブームもあって、市場が再拡大。
特に14年から醸造所数は漸増基調に。外国人経営醸造所も増えた。
2018年末は320程度を予測。最高更新必至。



http://www.kitasangyo.com/BEER/beer_index.htm　（発泡酒免許や、大手ーサッポロ・キリン・アサヒーが経営した・するブルワリーレストランを含むので、国税庁の数字より多くなっている。免許があっても閉店した時点で削除。一方、実名を掲載している関係で、消息が曖昧な場合は削除が遅れる場合もある。）

Craft Beer Breweries Count, 1995 → 2017

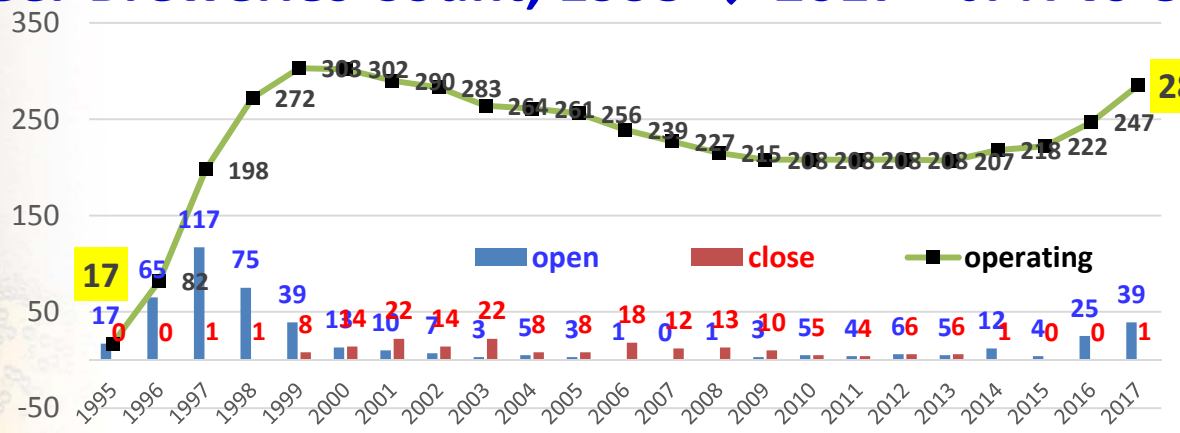
Researched by Kita Sangyo Co.

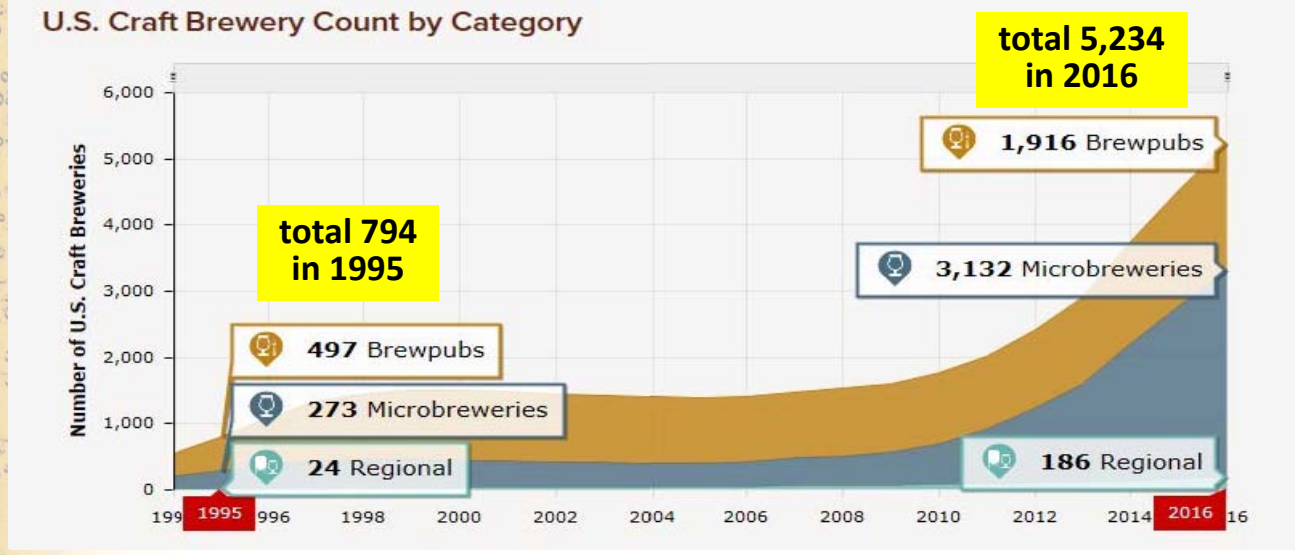


- きた産業では、地ビール解禁の1995年以来、独自に地ビール・地発泡酒の醸造所数を毎年カウントして蓄積し、ウェブサイトで公開しています。（大手ーサッポロ・キリン・アサヒーが経営した・するブルワリーレストランを含むので、国税庁の数字より多くなっている。免許があっても閉店した時点で削除。一方、実名を掲載している関係で、消息が曖昧な場合は削除が遅れる場合もある。）
- 23年間の累計：
  - ●459社が開業（再開含む）　●174社が閉店（休業含む）
  - ●459－174＝285社が2017年12月末現在営業中の醸造所数
- 存続率は「285÷459＝62%」。ずいぶん多くが淘汰されたことになる。中小企業庁の2011年の「中小企業白書」の「企業の生存率」という分析によれば「日本企業の20年間存続率は52%」だそう。

- 2017年廃業の1社は「阿蘇ファームランド」で、熊本地震の影響。（地震対策は日本の酒造業経営で考慮すべきファクター）
- 因みに、2010年以降の「クラフトビールブルワリー数増加」パターンは、「ワイナリー数増加」に極めて近い。約200社＠2010年、300社弱＠2017年。

Craft Beer Breweries Count, 1995 → 2017 + JPN vs USA





出所：Brewers Association プレスリリース 2018.02.20

	1995	2000	2005	2010	2015	2016	2017
Japan	17	302	256	208	222	247	285
US	794	1,509	1,394	1,754	4,504	5,234	追記 6,266
multiple	47倍	5倍	5倍	8倍	20倍	21倍	追記 22倍

Japan Craft Beer Breweries, Sales & Profit

出所：国税庁「地ビール等製造業の概況」
本資料作成で公表されているのは2014年度分まで

「地ビール」

（単位：者、百万円）

区　分	企業数	売上高	売上総利益	営業利益
H20 2008	148	(65.9) 9,757	(24.7) 3,649	(2.5) 366
H21 2009	157	(65.9) 10,349	(25.0) 3,929	(3.2) 504
H22 2010	146	(70.5) 10,298	(25.7) 3,752	(2.0) 286
H23 2011	147	(76.3) 11,214	(28.9) 4,245	(5.7) 832
H24 2012	147	(86.9) 12.776	(35.4) 5.197	(7.5) 1,107
H25 2013	150	(98.8) 14,827	(37.6) 5,641	(6.4) 956
H26 2014	155	(99.1) 15,367	(39.9) 6,180	(7.5) 1,162

（注）1　ビール製造業に係る計数のみ掲げている。
　　2　かっこ書は1者平均値である。

「地発泡酒」

（単位：者、百万円）

区　分	企業数	売上高	売上総利益	営業利益
H20 2008	72	(10.7) 773	(4.5) 321	(0.7) 52
H21 2009	76	(11.9) 905	(5.3) 406	(0.8) 62
H22 2010	75	(11.8) 888	(4.4) 327	(△0.3) △22
H23 2011	84	(15.2) 1,276	(6.2) 522	(0.7) 58
H24 2012	92	(20.2) 1,860	(8.8) 814	(1.3) 122
H25 2013	94	(23.7) 2,228	(10.3) 971	(1.5) 141
H26 2014	114	(24.9) 2,840	(10.2) 1,168	(0.9) 99

（注）1　発泡酒製造業に係る計数のみ掲げている。
　　2　かっこ書は1者平均値である。

- 経営状態は、2011年頃から明らかに好転

- 2014年時点の平均像：
  - ●クラフトビール醸造所→売上1億円、営業利益700万円程度
  - ●クラフト発泡酒→売上2,500万円、営業利益100万円程度。

Craft Share, 2011 vs 2017

Estimated by Kita Sangyo Co.

Craft in Japan		2011 estimated				2017 estimated			
		大手5社	クラフト 約200社	輸入	クラフト比率	大手5社	クラフト 約280社	輸入	クラフト比率
volume	ビール	280KL	1.8KL	4.2KL	0.6%	259KL	2.8KL	3.7KL	1.1%
	発泡酒＋第三	280KL	0.2KL	19.4KL	- - -	252KL	0.5KL	18.2KL	- - -
	ビール類合計	560KL	2.0KL	23.6KL	0.3%	511KL	3.3KL	21.9KL	0.6%
value	ビール			（感覚的推測→）	1%			（感覚的推測→）	2%
	ビール類合計			（感覚的推測→）	0.5%			（感覚的推測→）	1%

- 2017年、「ビール」における量のシェアで1%を超えたと推定。金額シェアでは2%程度。「ビール類全体」では量で0.6%、金額で1%と推定。

- (地発泡酒を含む）1社平均の出荷量は、
  ●2011年：約2万KL/約200社＝約100KL/社
  ●2017年：約3.3KL/約280社＝約120KL/社
  ごく小さな醸造所が増えているが、中～大規模のクラフトの生産量が増えているので、1社あたりの量が増加傾向。

- 輸入ビールの主な原産国はベルギー、アイルランド、メキシコ、ドイツなど、輸入発泡酒（大手流通のPBなど）は韓国など

Craft Share, 2011 vs 2017 + JPN vs USA

Estimated by Kita Sangyo Co. + Brewer's Association statistics 20120326 & 20180509

Craft in Japan		2011 estimated				2017 estimated			
		大手5社	クラフト 約200社	輸入	クラフト比率	大手5社	クラフト 約280社	輸入	クラフト比率
volume	ビール	280KL	1.8KL	4.2KL	0.6%	259KL	2.8KL	3.7KL	1.1%
	発泡酒＋第三	280KL	0.2KL	19.4KL	- - -	252KL	0.5KL	18.2KL	- - -
	ビール類合計	560KL	2.0KL	23.6KL	0.3%	511KL	3.3KL	21.9KL	0.6%
value	ビール			（感覚的推測→）	1%			（感覚的推測→）	2%
	ビール類合計			（感覚的推測→）	0.5%			（感覚的推測→）	1%

- アメリカも2011年ころが転換点だったので、同じ時期を比較してみる。

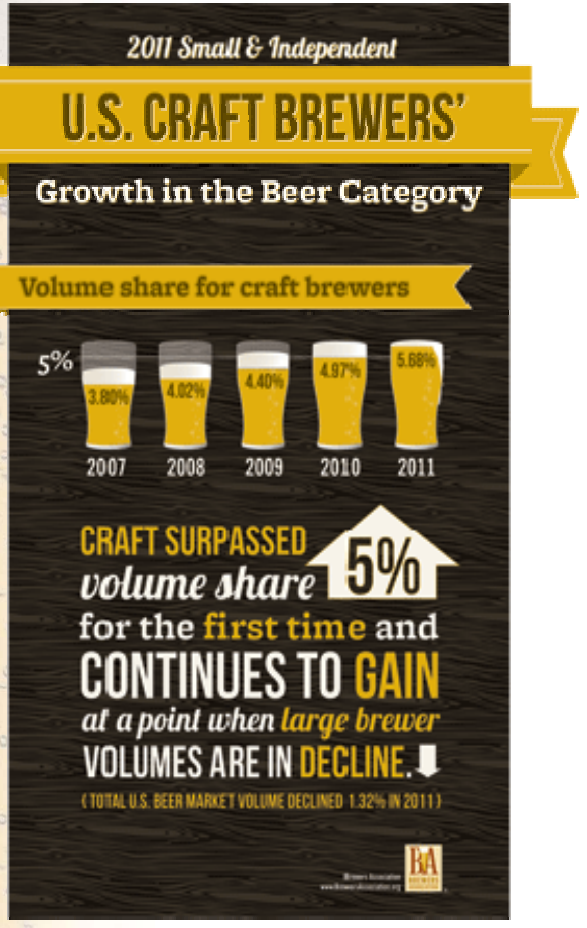
Craft in US		2011				2017			
		大手	クラフト 1,938社	輸入	クラフト比率	大手	クラフト 6,266社	輸入	クラフト比率
volume	ビール	2,229KL	117KL	NA	5.7%	1,607KL	295KL	404KL	12.7%
value	ビール				- - -	(in total) $111.4B	$26.0B	- - -	23.3%

•1 barrel = 31 US gallons = 117.335 liter で換算

Craft in USA, 2011 vs 2017

Brewer's Association statistics 20120326 & 20180509

2011



2017

●2011年のクラフトビールの出荷量は全米のビールの5.68%のシェア、5%越えはこの年。
●全米ビール市場が1.32%減となった中での0.71ポイントの増加！

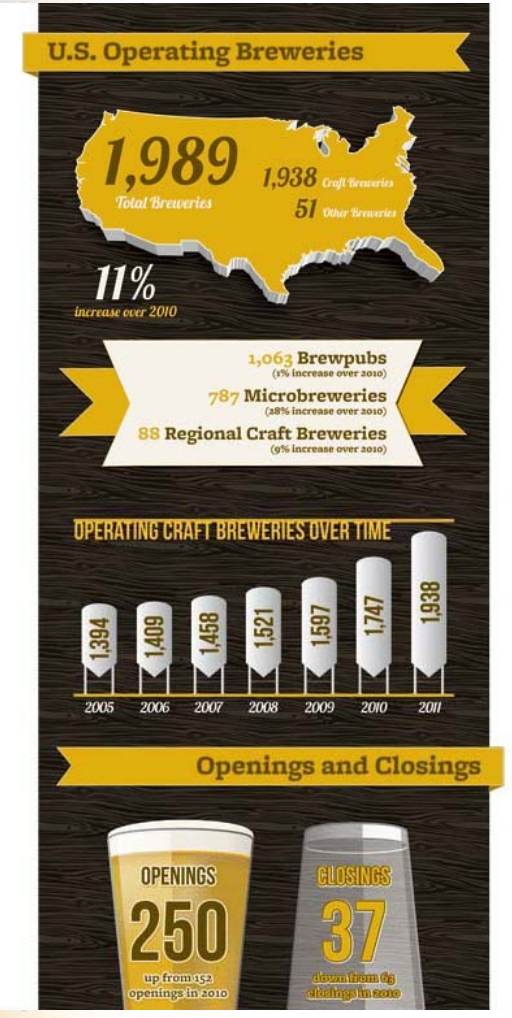
●2017年のクラフトビールの出荷量は全米のビールの12.7%のシェア。（2015年に10%越え）
●全米ビール市場サイズが▲1.2%の減少の中で、クラフト3.2%増、輸入ビール3.6%増。
●クラフトの輸出は、482,309BBLS(=5万6,600KL)で、3.6%増加！

Craft in USA, 2011 vs 2017

Brewer's Association statistics 20120326 & 20180509

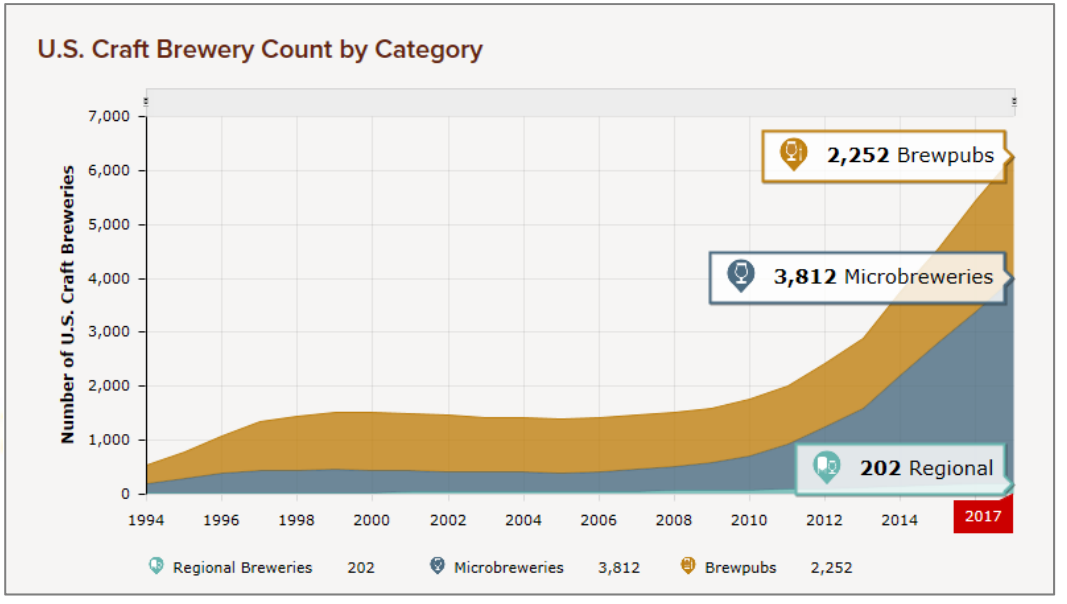
2011

●クラフトビール醸造所は1,938か所
(2011年に250開業、37閉店)



2017

●クラフトビール醸造所は6,266か所
(2017年に995開業、165閉店)
2016年にアメリカ史上初めて5,000の大台を超え、2017年は6,000を超えた。
(アメリカには1800年代には5,000近くの醸造所があったが、禁酒法や戦争、大手への集約を経て、1970年までには100近くに減少していた。因みに日本でも、第一次大戦頃までは10,000以上の清酒醸造所があった。)



Craft in USA, 2011 vs 2017

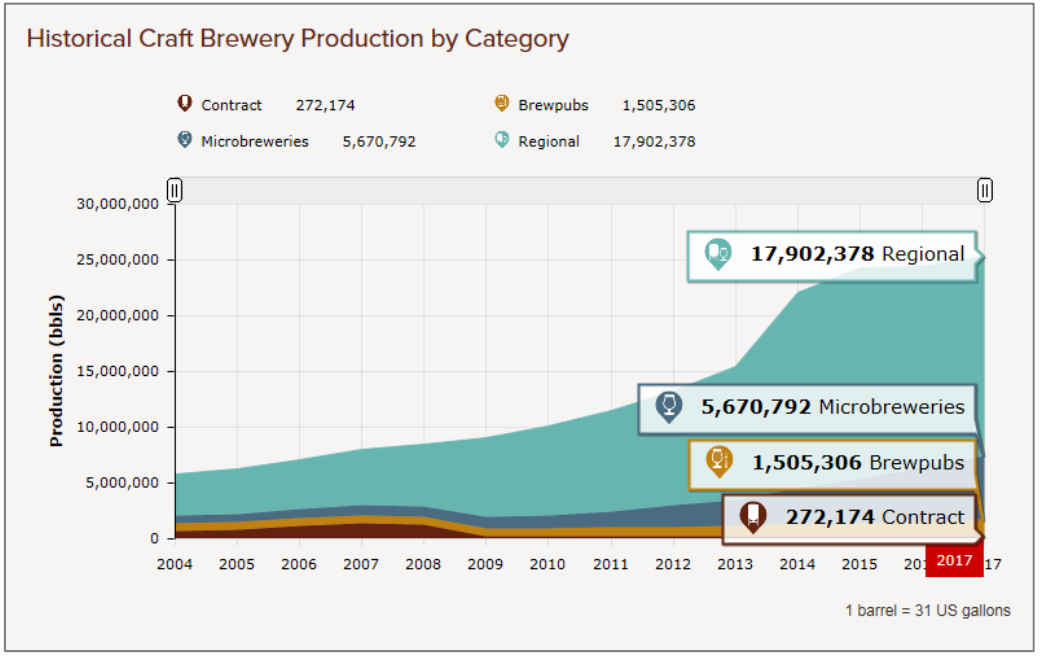
Brewer's Association statistics 20120326 & 20180509

2011

●クラフトビールの生産量は
1,150万バレル（＝135万KL）

2017

●クラフトビールの生産量は
2,487万バレル（＝292万KL）



Craft in USA, 2011 vs 2017

Brewer's Association statistics 20120326 & 20180509

2011 2017

		2011				2017			
		Breweries operating	in 0,000 kilo liter	% share	**volume per brewery**	Breweries operating	in 0,000 kilo liter	% share	**volume per brewery**
Brewpubs	A restaurant-brewery that sells 25% or more of its beer on site	1,063	**8.8**	**0.38%**	**83KL**	2,252	**17.7**	**0.8%**	**79KL**
Microbreweries	A brewery that produces less than 15,000 barrels (17,600 hectoliters) of beer per year with 75% or more of its beer sold off-site.	789	**12.4**	**0.53%**	**158KL**	3,812	**66.5**	**2.9%**	**174KL**
Regional Craft Breweries	A brewery with an annual beer production of between 15,000 and 6,000,000 barrels.	88	**92.9**	**3.96%**	**10,554KL**	202	**210.1**	**9.1%**	**10,400KL**
Contract brewing companies	A business that hires another brewery to produce its beer.	***	**2.6**	**0.11%**	***	***	**3.2**	**0.1%**	***
Total US Craft Breweries		1,938	**116.8**	**4.98%**	**603KL**	6,266	**291.8**	**12.7%**	**466KL**
Large Non-Craft Breweries	A brewery with an annual beer production over 6,000,000 barrels.	21	2,229.2	95.02%	***	71	1,607.2	69.8%	***
Other Breweries	Not included in the above	30				35			
Imported Beer		***	NA	NA		***	404.0	17.5%	
Total US Breweries		1,989	2,346.0	100%		1,989	2,309.0	100%	

出所：Brewers Association @ 180509のデータから作成

•1 barrel = 31 US gallons = 117.335 liter で換算

Recent Topics #1 : World Booming

- 世界中でクラフトビールがブーム！
  - ●アメリカ、カナダ、メキシコはもちろん
  - ●オーストラリア、NZでも
  - ●ヨーロッパでは、英国・ドイツはもちろん、イタリア・フランスなどビールと縁が薄い食文化の国でも
  - ●旧共産圏、たとえばピルスナーのふるさとチェコでも
  - ●中国、香港、シンガポール、台湾、韓国、フィリピンでも
  - ●そして日本でも

- 世界的ブームの理由？
  - ●日本と同じくビール総需要の低下傾向がクラフトの原因
  - ●大手の画一的品質の食品・飲料ですべての需要をカバーできる時代は終わった
  - ●ネットの普及・旅行者の増加でローカルでも醸造所が成り立つ、ブームが世界に拡散する
  - ●販売者にとって大手ブランドは儲からない商材、クラフトは利益が出る商材

- 日本は、アメリカのようにシェア10%超えになるか？
  - ●個人的予想→2025年にビール類で3%到達　（注：2020年と2023年にビールの酒税減額あり）

- クラフトビールは世界を流通
  - ●20世紀→「旅をしないビール」を求めて「ビアライゼ」を楽しむ時代
  - ●21世紀→日本のクラフトがアメリカでもアジアでもヨーロッパでも手に入る時代

- クラフトの他分野への広がり
  - ●「クラフト」蒸留所（クラフトウイスキーやクラフトジン）
  - ●「クラフト」サケ醸造所
  - ●「クラフト」チョコレート、、、、

Recent Topics #2 :「地ビール」が「クラフトビール」に

- 2014年頃から、呼び名が徐々に「地ビール」→「クラフトビール」に。
- 地ビール業者の主導で呼称が変わったわけではなく、大手ビールの参入がきっかけだった。
- 大手ビールがクラフトに参入するとき、「地ビール」の名前を使うわけにいかない、また、実際にマイクロ醸造所を作る場合、都市型のブルパブになることが多いので、「地ビール」とはいいがたいという事情があった。
- 今日、メディアでは「クラフトビール」と「地ビール」の両方が使われている。

2015.6.29　日経新聞

日経産業新聞　2015年(平成27年)6月29日(月曜日)

市場泡立たせる潜在力

クラフトビール、大手も競う

大手ビールメーカーの主なクラフトビール

メーカー名	キリンビール	アサヒビール	サントリービール	サッポロビール
ブランド名	スプリングバレーブルワリー	クラフトマンシップ	クラフトセレクト	クラフトラベル
商品名	同496	同ドライペールエール	同スペシャルビター	同柑橘香るペールエール
特徴	エールのような芳醇（ほうじゅん）さと低温熟成ビールのようなキレ	豊かなコクとホップの香り。上面発酵酵母を使用のペールエールタイプ	しっかりした苦味と希少ホップ使用による爽やかな香り	2種類のフレーバーホップを使用し鮮やかな柑橘の香り
価格	389円（330ミリリットル）	250円前後（350ミリリットル）	250円前後（350ミリリットル）	288円（350ミリリットル）

魅力的な味増やす必要

クラフトビールは、特と。明確な定義はなく、別な原料を使ったり、製地域特性を生かした少量法を採用したりして、個生産のビールを指すこと性を持たせたビールのこもある。かつては「地ビ

カーや流通の期待は高まっている。有識者で構成する「新製品評価委員会」（委員長・片岡寛一橋大名誉教授）で今後の市場の可能性を議論した。

ールと呼ばれていたが、最近では大手ビールメーカーも参入し、クラフトビールという呼び方が定着してきている。

評価商品にはサッポロビールが全額出資子会社を通じて5月26日に発売した「Craft Label（クラフトラベル）

柑橘（かんきつ）香るペールエール」（350ミリリットル、288円）を選んだ。2種類のフレーバーホップを使い、鮮やかなかんきつの香りと深みのある味わいを出した。

商品コンセプトについては各委員の評価はおおむね好評だった。百貨店関連会社部長は「大手ビール各社の製品は同質化してきており、ユーザーには潜在的な不満があった。これまでのビールとは違い、こだわりが伝わってくる」と話す。

味については意見が分

い」（ワインアド）という声があ方で、「味わってはぴったりだが、むビールとしてはある」（ビジネスルタント）という

今後の市場にう意見が大半を占は、可能性を感じ「これまでビールり飲まなかった層け入れられるので か」（生活コンサ ト）、「プレミアルや、海外で個性 ールを飲んだ人は本のビールに物足 を感じており、市る」（ビジネスコタント）。

研究員の目

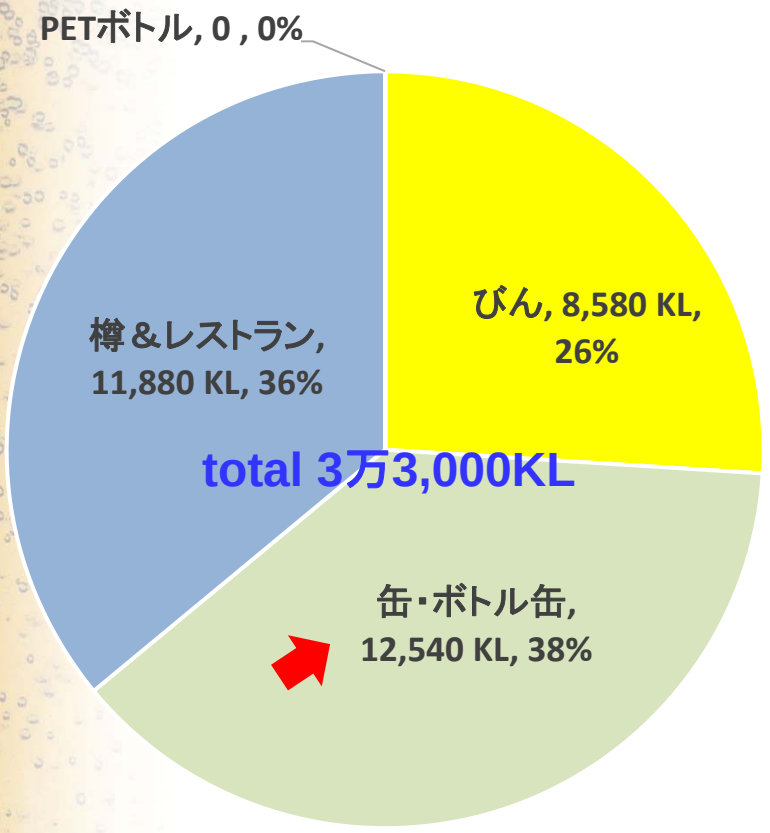
若者層の開拓期待

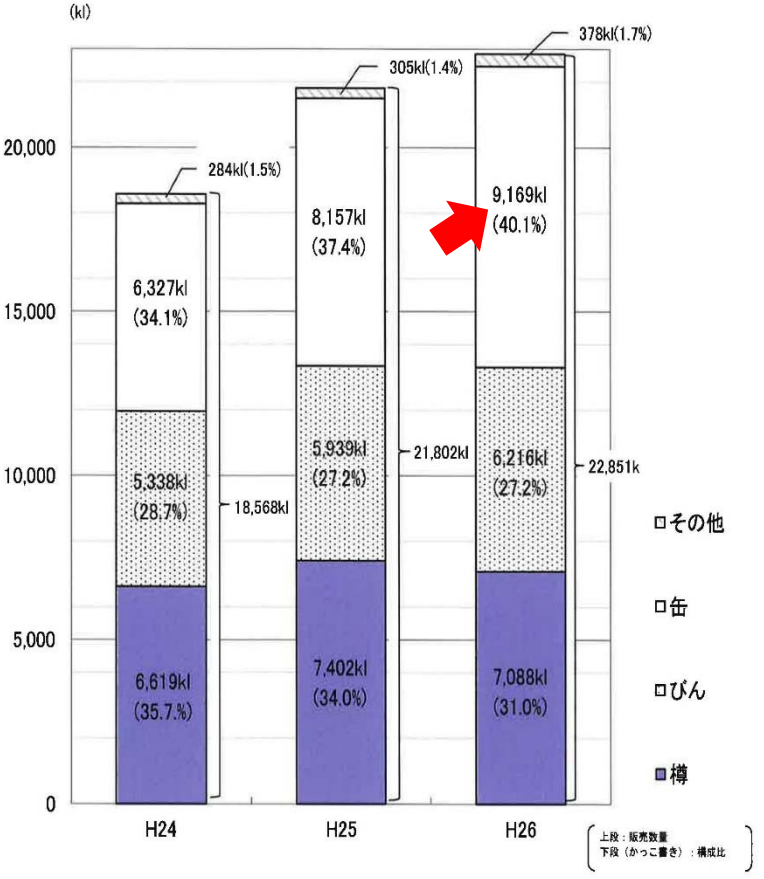
消費者のビール離れが止まらない。ビール系飲料の市場は10年間前年割れが続いている。酒類の多様化や若者のビール離れなど原因はいくつかあるが、日本のビールが海外に比べて同質化しすぎているのも一因ではないか。第三のビール、発泡酒、ビール、プレミアムビールなど価格による商品選択はできるが、味は似通っている。

一方、欧米では発酵のさせ方、麦芽やホップなど原料の使い方

Recent Topics #3 : Increasing Canned Beer

- 当初はク「ラフトの缶はクラフトの自己否定」などと揶揄されたが、、、
- 現在は缶入りが主力商品になりつつある。
  - ✓ きた産業の推定＠2017年：全生産の38%
  - ✓ 国税庁の地ビールの調査＠2014年：全生産の40.1%
- クラフトを輸出するうえでも、缶は有力なパッケージ



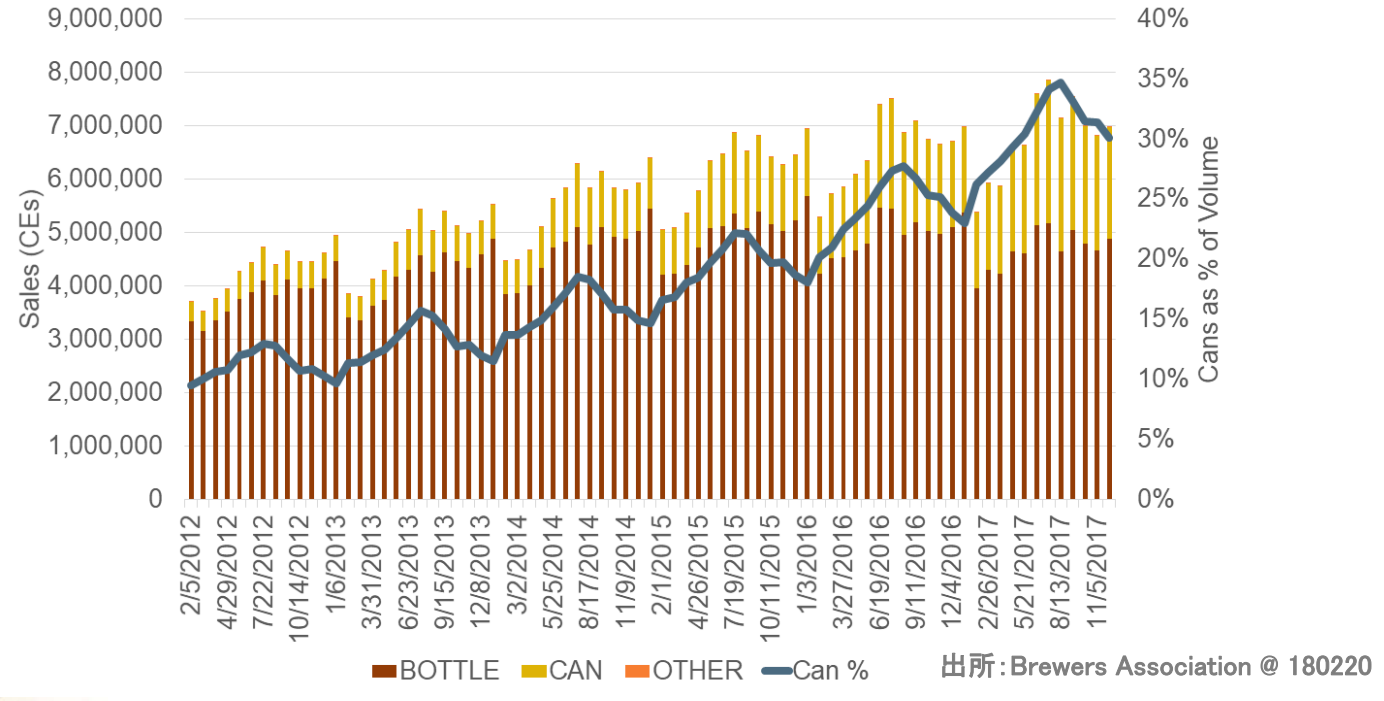


Recent Topics #3 : Increasing Canned Beer

Cans and Bottles: Craft Beer Packaging Trends in 2017

January 9, 2018

Craft Beer Sales by 4 Week Period, 2012-2017



出所：Brewers Association @ 180220

- 2011年ころからクラフトの缶が出現、写真は2012年ごろの製品の写真。当時は、日本に追いついてきた、と思った。
- その後急成長し、2017年では、**容器販売の30%程度が缶（70%がびん）**
- Wild Gooseの手軽な缶詰機の普及が背景にある。

Recent Topics #4 : Giant players enter to Craft Fact in Japan 2014-2017

	2014-2015年	2016-2017年
キリン	■ 2014年、地ビール最大手「ヤッホーブルーイング」に33.4%出資。2016年現在、ヤッホーのメインブランド（缶）はキリンで製造。 ■ 2015年、「SPRING VALLEY BREWERY 」を代官山と横浜に開業。代官山は「透明（！）の醸造釜とタンク」。330mlびんも発売。	■ 2016年、NYの「Brooklyn」（米国クラフト12位、生産量は3万5,000KL！）に24.5%出資。 ■ 2017年、「Brooklyn」の缶発売。 ■ 2017年、「SPRING VALLEY BREWERY 」を京都に開業。 ■ 2017年、「タップマルシェ」で常陸野ネストも販売。
アサヒ	■ 2015年、「クラフトマンシップ」シリーズとして、ドライポーター、ドライペールエールなどをコンビニ限定で販売。 ■ 2015年、アサヒ本社隣に「クラフトマンシップブルワリー東京」を開業。	■ 2016年、中元セット箱で、スーパードライと軽井沢ビールの詰め合わせ発売。 ■ 2016年のペローニ、グロルシュ買収には、英国のクラフト「ミーンタイム」が含まれる。 ■ （一時クラフト撤退を発表したが）2017年、茨木工場にクラフト製造設備導入、「TOKYO隅田川ブルーイング」でもクラフト注力を表明。
サッポロ	■ 2015年、クラフト参入を表明。「Craft Label 柑橘香るペールエール」を発売。350ml缶。	■ 2017年、カリフォルニアの有力クラフト「Anchor Steam」を買収。
サントリー	■ 2015年、「クラフトセレクト」シリーズとして、ブラウンエール、ペールエール、メルツェンなどを発売。	■ 2017年、「クラフトセレクト」シリーズを強化。

→ 日本の大手は「1社がやれば3社追従」の法則がある
例：0.00%、プリン体ゼロ、特保、プレミアムビール、、、そしてクラフトも

Recent Topics #4 : Giant players enter to Craft

Prehistory scrapbook, 2010-2014

米の地ビール会社買収

【ジュネーブ＝原克彦】ビール世界最大手のアンハイザー・ブッシュ・インベブ（ベルギー）は米国の地ビール会社、ブルー・ポイント・ブルーイングを買収することで同社と合意した。米国では消費者の嗜好の多様化を受け、人気商品が大手メーカーから地ビールに移っている。小規模でも成長が見込めるブランドを傘下に収め、米国でのシェア拡大を狙う。

ABインベブの米子会社アンハイザー・ブッシュが5日、発表した。ブルー・ポイントは15年前にニューヨーク州で創業し、主に米国の東海岸で地ビール「トーステッド・ラガー」などを販売する。2013年の販売量は約6万バレル。4～6月のうちに買収を終える予定だ。買収額は明らかにしていない。ABインベブは拡大路線を進めている。

2014.2.6　日経新聞

米地ビールを買収

ビール世界大手アンハイザー・ブッシュ・インベブ（ABインベブ）の米国事業アンハイザー・ブッシュ

ABインベブ

は、米地ビール醸造のフルトン・ストリート・ブリュワリーを総額3880万ドル（約32億6300万円）で買収する。「バドワイザー」などの有力ブランドを持つABインベブは資金力と販売網を生かして高収益の地ビール事業も強化する。

フルトンは人気のシカゴ地ビール「グース・アイランド」＝写真＝を手掛けるABインベブはフルトン株58％を創業者などから2250万ドルで、残りを複数の地ビール醸造所運営を手掛ける米クラフト・ブリュワーズ・アライアンスから1

32億円を投資

630万ドルで取得する。地ビールは生産量が少なく販売地域が限られるが、「バドワイザー」などの量販ブランドと比べて価格が高く、利益率も良い。ABインベブは買収手続きが完了を受け、シカゴの地ビール醸造所の生産強化に130万ドルを投じる計画。

（ニューヨーク＝西邨紘子）

2011.4.?　日経新聞

豪ビール、完全子会社に

キリンHD 200億円追加出資

キリンホールディングス（HD）は18日、オーストラリアのビール会社、リトル・ワールド・ビバレッジ（LWB、西オーストラリア州）を完全子会社化すると発表した。キリンHD傘下の豪ビール大手、ライオンを通じて株式を追加取得する。今秋にTOB（株式公開買い付け）を実施する方針で、追加取得の金額は2億5000万豪ドル（約200億円）。

ライオンはLWB株を約36％握る筆頭株主。LWBはオーストラリア証券取引所に上場しており、ライオンは10月にもLWB株のTOBを完了する予定。TOB価格は5・3豪ドルで、直近の株価に約4割のプレミアムを付けた。キリンはLWBの完全子会社化により品ぞろえを拡充し、同国のビール事業を強化する。

LWBは2000年創業の地ビールメーカーで、パースなどの都心部を中心に自社商品を展開。11年6月期の売上高は約56億円。キリンHDによると、豪州における地ビールの販売シェアは全体の2％程度だが、ここ数年は人気が高まっているという。

2012.6.19　日経新聞

→　注：2014年ころまでは、外国の醸造所に対しても「地ビール」という呼称だった。

Reference: Japanese Craft enters to Export

Prehistory scrapbook, 2001-2010

参考情報：
日本クラフトの
輸出・前史

「木内酒造が全米に地ビール輸出」
日本経済新聞2001年07月27日
木内酒造がアメリカ向けに地ビールを輸出。輸出するのは「ヴァイツェン」と「ホワイトエール」。主に東海岸で販売。

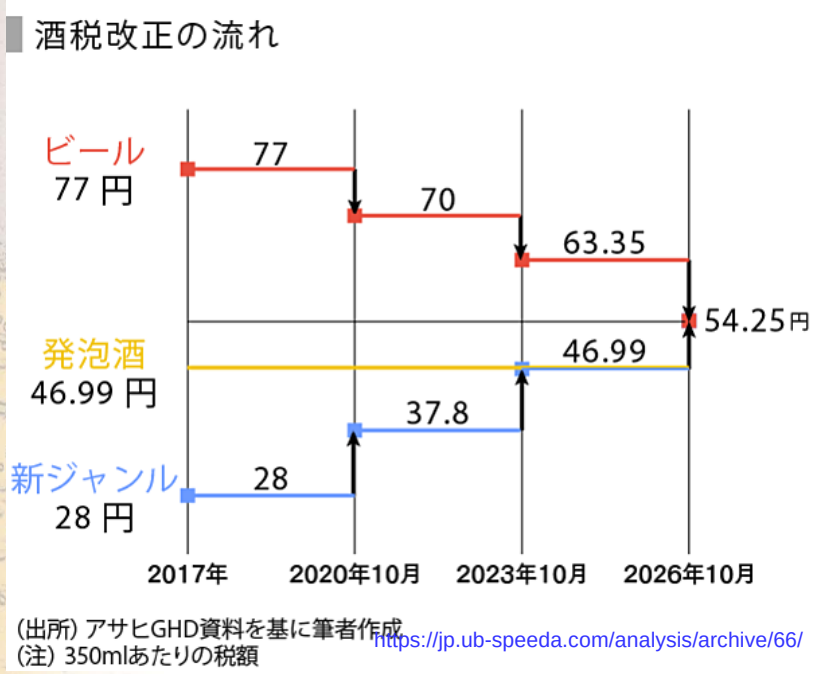
「地ビール　COEDO　世界へ」
YOMIURI ONLINE　2009年4月10日
地ビール「COEDO」を製造する協同商事（川越市今福）は今春から、米カリフォルニア州向けにCOEDOの輸出を始めた。すでに3月から、カリフォルニア州のサンフランシスコなど、日本食が普及し食文化が多様な地域を中心に輸出を開始。夏にニューヨークやロサンゼルス、秋にはモスクワにも輸出を始める予定で、ほかの国の業者とも商談が進んでいる。

2006年12月開業

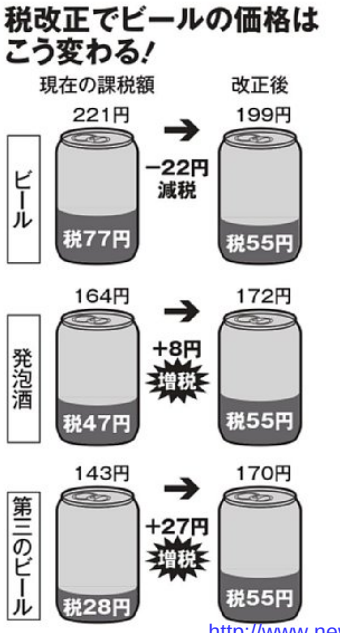
「エチゴビール、モスクワへ攻勢」
2009年5月29日【新潟日報】
地ビールメーカーのエチゴビールは、ビールの消費量が増えているロシアへの輸出を始めた。先月、首都モスクワへ缶ビールと瓶ビール計800ケースを昨秋に続いて出荷した。ロシアでは日本製品への信頼が高まっており、主に高級スーパーで販売されている。国内市場が伸び悩む中、輸出量を伸ばしている米国に次ぐ第2の海外市場として狙う。　同社は2007年春、本県と交流があるウラジオストクの販売会社と契約し缶、瓶合わせて約1400ケースを初めて輸出、…

「木内酒造、地ビール生産倍増　新興国を開拓」
日経ネット2008年6月5日
木内酒造（茨城県那珂市、木内造酒夫社長）は地ビールの輸出を拡大する。欧米に加え、年内にもブラジルへの輸出を始めるなど新興国の市場開拓も本格化させる。このほど新工場が稼働。海外需要をにらんで、年間400キロリットルだった地ビールの生産量を倍増する。国内のアルコール市場が伸び悩む中、全出荷量に占める地ビールの輸出比率を従来の3割から2—3年後に5割に引き上げる。

Recent Topics #5：日本の酒税法改正

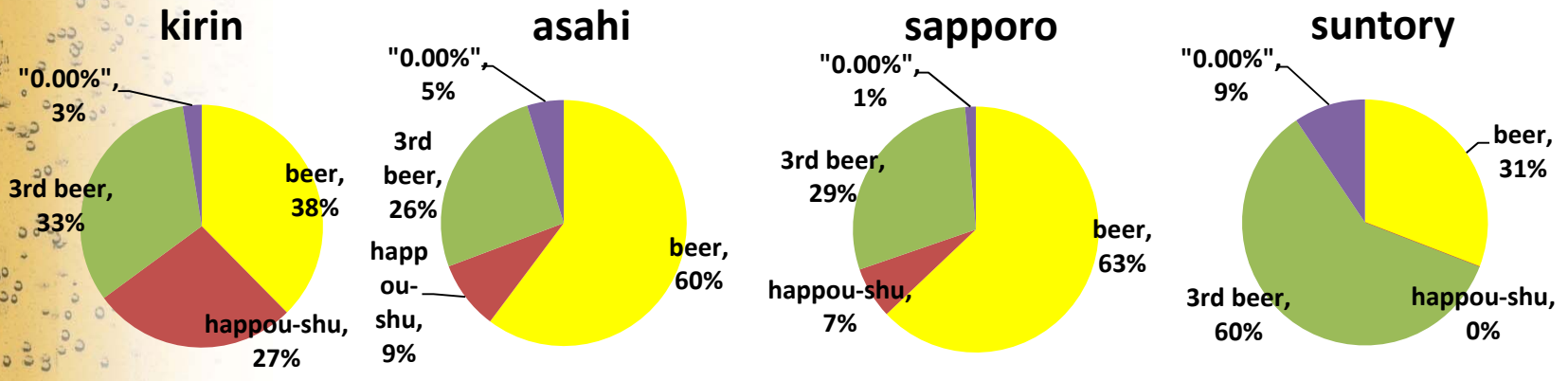


https://jp.ub-speeda.com/analysis/archive/66/



http://www.newspostseven.com/archives/20161129_470088.html?IMAGE&PAGE=1

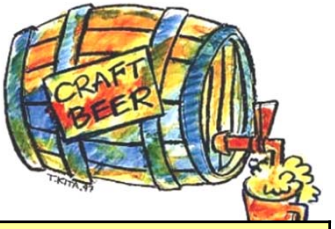
2017年の大手4社の出荷状況：ジャンル比率がまったく異なるので、影響や戦略は大きく違う。



出所：業界誌記事をもとに作成　小数点以下を四捨五入して%表示

クラフトビールへは、好影響を予測。

参考情報：
日本独自の副原料



酒税法改正で、ビールに許容される副原料

	従来	2018年4月から
麦芽	67%以上	50%以上
許容副原料	麦 米 とうもろこし こうりゃん ばれいしょ でん粉等	1. 果実（果実を乾燥させ、若しくは煮つめたもの又は濃縮した果汁を含む） 2. コリアンダー（エスニック料理では「パクチー」）又はその種 3. ビールに香り又は味を付けるため使用する次の物品 (ア) こしょう、シナモン、クローブ、さんしょうその他の香辛料又はその原料 (イ) カモミール、セージ、バジル、レモングラスその他のハーブ (ウ) かんしょ、かぼちゃその他の野菜（野菜を乾燥させ、又は煮つめたものを含む） (エ) そば又はごま (オ) 蜂蜜その他の含糖質物、食塩又はみそ (カ) 花又は茶、コーヒー、ココア若しくはこれらの調製品 (キ) かき、こんぶ、わかめ又はかつお節

Kin Shachi Beer

YonaYona Beer

クラフトビールの方向性は、、、

1. オールモルトで、特別なあるいは地域の原料
2. 地域・日本独自の副原料（国際語→「Yuzu ゆず」「Umami うまみ」「Sansho さんしょ」「Miso みそ」）
3. オーガニック、遺伝子組み換え原料なし
4. 殺菌なし（輸出の場合は、パストライズが不可欠だが）
5. ブルパブ
6. ツーリズム
7. そのほか、、、

Recent Topics #6 : Breweries by Foreigners

「外国人オーナー」または「外国人醸造責任者」の日本の酒造メーカー（180213）

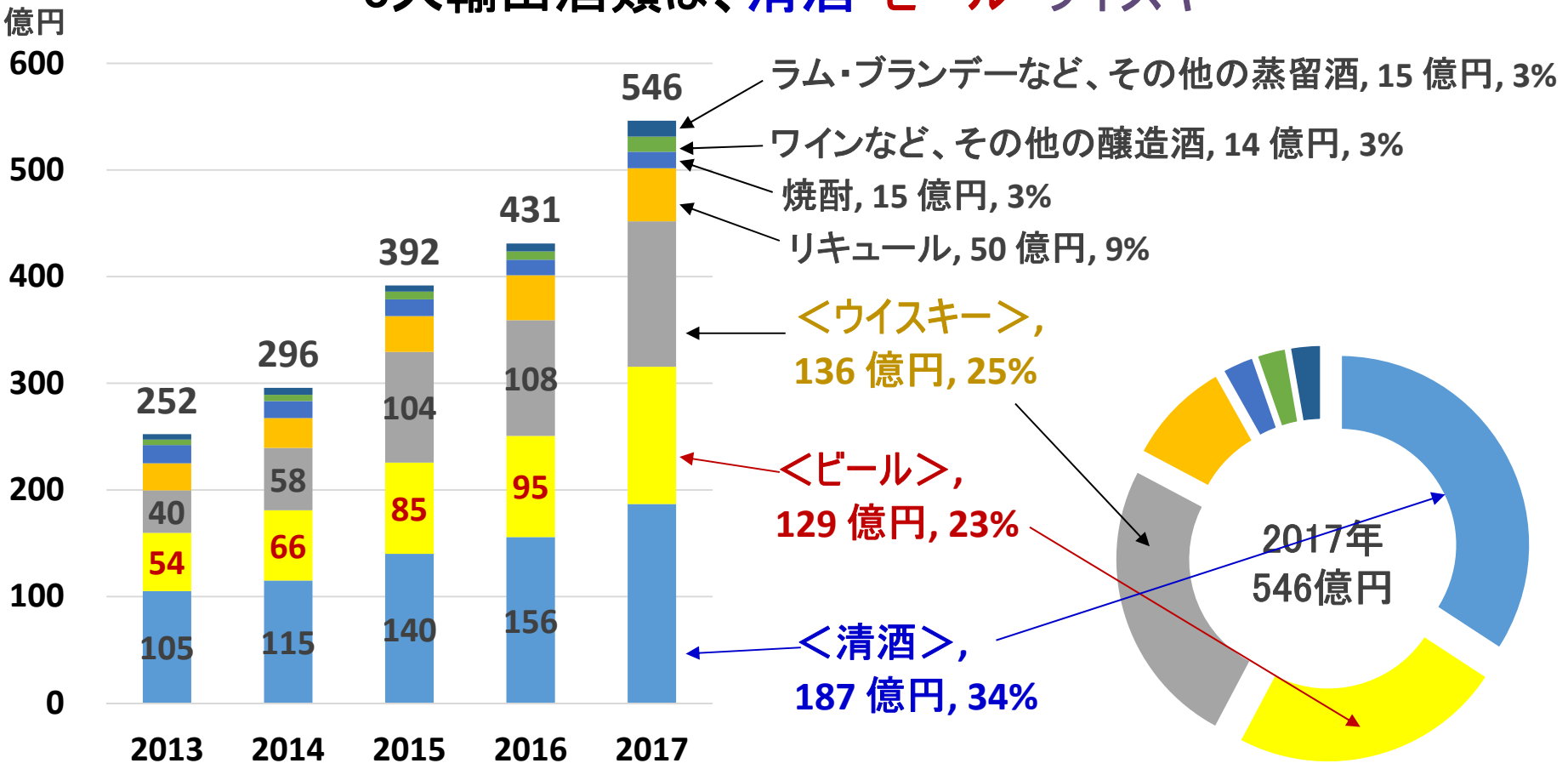
- 他の酒類に比べ、クラフトビールは外国人参入者が極めて多い。
- クラフトビールは、外国人にとって取り組み易いビジネス、外国人フレンドリーである。

清酒：1	京都	木下酒造	「玉川」	英国人	フィリップ・ハーパー	07XX
ワイン：2	北海道	10R（とある）ワイナリー	10R Winery	アメリカ人	ブルース・ガットラブ	12XX
	静岡	ミレジム・富士山ブルワリー	Fujisan Wine	カナダ人	アーネスト・シンガー	12XX
クラフトビール：14+近日2	愛知	PROGRESSIVE PARTNERSHIPS Hyappa	Hyappa Brews / Izakaya Ja Nai ! !	アメリカ人	クレイグ・E・モーリー	1312
	東京	デビルクラフト	Deville Craft	アメリカ人	3人、ジョン、マイク、ジェイソン	1510
	東京	カンピオンエール	Campion Ale	英国人	ジェームス・ウィリアムス	1312
	東京	ディスタントショアーズブルーイング	Diastant Shores Brewing	英国人	マイケル・ケルサル	17xx
	長野	Anglo Japanese Brewing Company	Anglo Japanese Brewing Company	英国人	トム・リブシー	1312
	長野	Hakuba Brewing Company／白馬ビール	Hakuba Brewing Company	オーストラリア人	Daniel Bacon	1511
	北海道	株式会社アレフ	Otaru Beer	ドイツ人	ヨハネス・ブラウン	9507
	岩手	さくらブルワリー／ALE HOUSE ROBIN HOOD	Sakura Brewery	英国人	スティーブン・マイケル・バットランド	1503
	神奈川	エビナビール	EBINA BEER	チェコ人	レハク・トーマス	1707
	神奈川	ブリマー・ブルーイング（株）	Brimmer Brewing	アメリカ人	スコット・ブリマー	1202
	静岡	(資)ベアードブルーイング／ベアードビール	Baird Brewing Company	アメリカ人	ブライアン・ベアードP	0101
	京都	京都醸造(株)	Kyoto Brewing Co.	カナダ人	ポール・スピード	1505
	青森	Be Easy Brewing／ギャレスのアジト	Be Easy Brewing / Gareths Hideout	アメリカ人	ギャレス・バーンズ	1609
	山梨	アウトサイダー・ブルーイング	Outsider Brewing	オーストラリア人	マーク・メジャーP	1201
	近日・徳島		KAMIYAMA BEER PROJECT		Sweeney Manus Patrick	coming soon
	近日・徳島		2nd Story Ale Works		Patrick Brown	coming soon
スピリッツ：1	京都	ウィスク・イー　京都蒸留所	「季の美」	英国人	デービッド・クロール	16XX

注：リストは当社で知っている範囲をまとめたもので、他にあるかもしれない。
注：清酒→過去には韓国オーナーの会社があったが日本オーナーに復帰。清酒醸造を勉強する外国人は多い。

日本酒類の輸出＠2017年

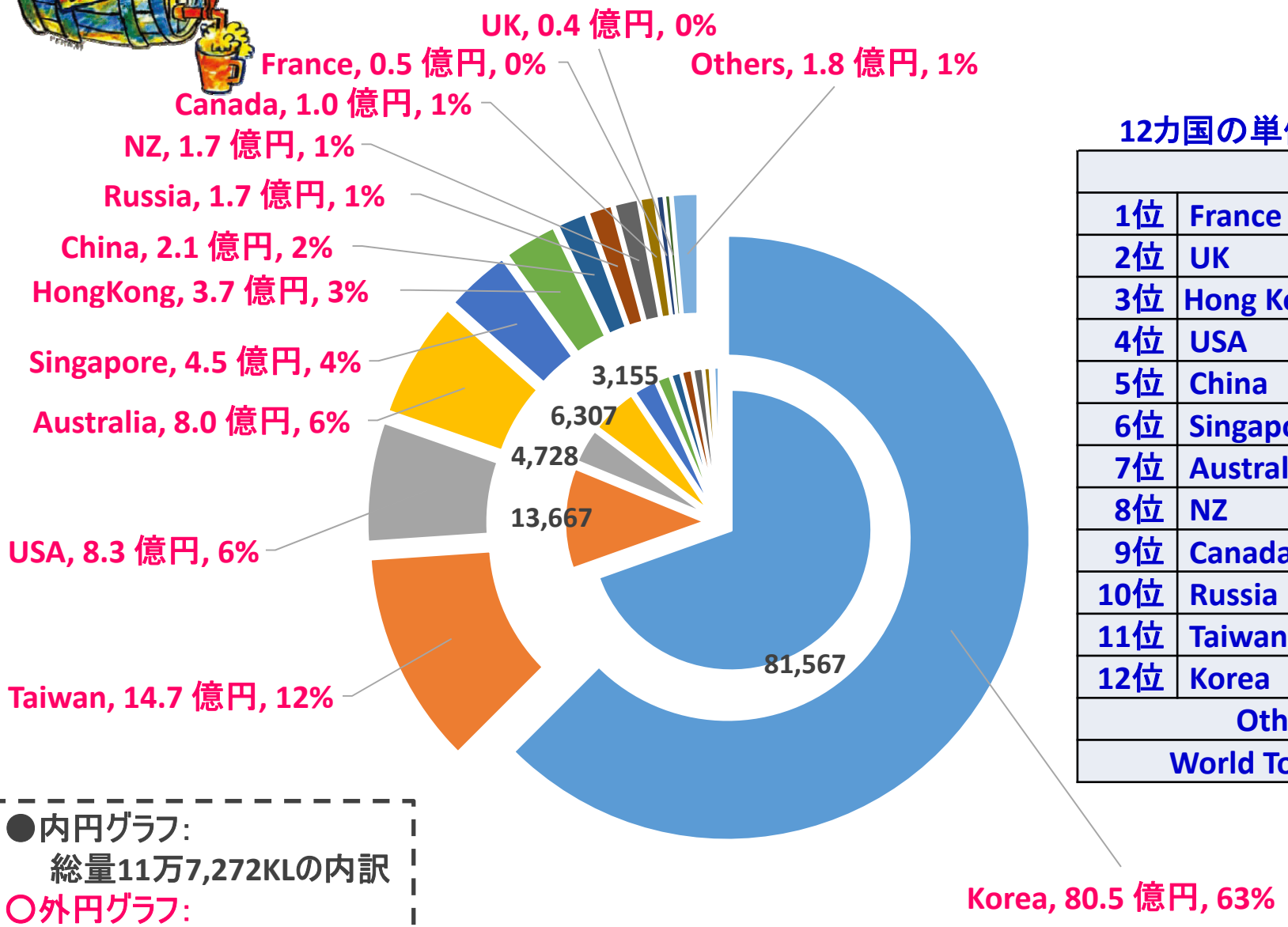
3大輸出酒類は、清酒・ビール・ウイスキー



財務省貿易統計（2018年2月15日時点の検索）、以下同じ

- 日本酒類の輸出は毎年2桁成長で、「クールジャパン」重点品目。2017年は500億円超え。
- 清酒・ビール・ウイスキーが3大輸出品。金額シェアはそれぞれ、34%、23%、25%。
- 2016→2017年の成長率は、20%、36%、26%で、ビールがトップ。
- （参考）5年レンジで見るとウイスキーがトップ→この3年で10社近くの「クラフト」ディスティラリーが出現

2017年の＜ビール129億円＞輸出先：金額の上位12カ国

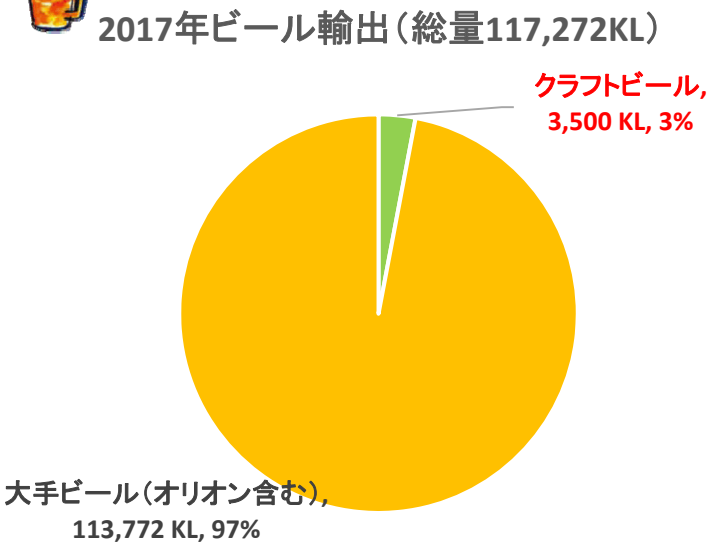


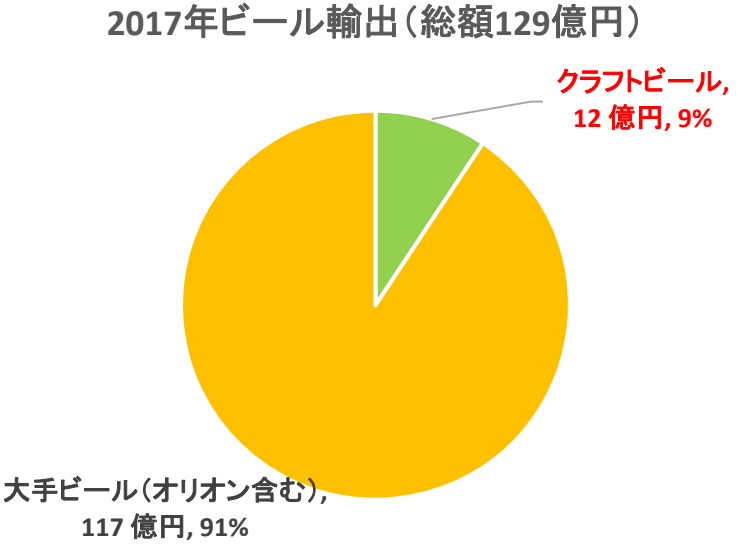
12カ国の単価の順位

		¥/liter
1位	France	252
2位	UK	243
3位	Hong Kong	202
4位	USA	175
5位	China	157
6位	Singapore	142
7位	Australia	127
8位	NZ	123
9位	Canada	119
10位	Russia	118
11位	Taiwan	108
12位	Korea	99
	Others	247
	World Total	110

●内円グラフ：
総量11万7,272KLの内訳
○外円グラフ：
総額129億円の内訳

2017年のクラフトビール輸出の分析（推定）

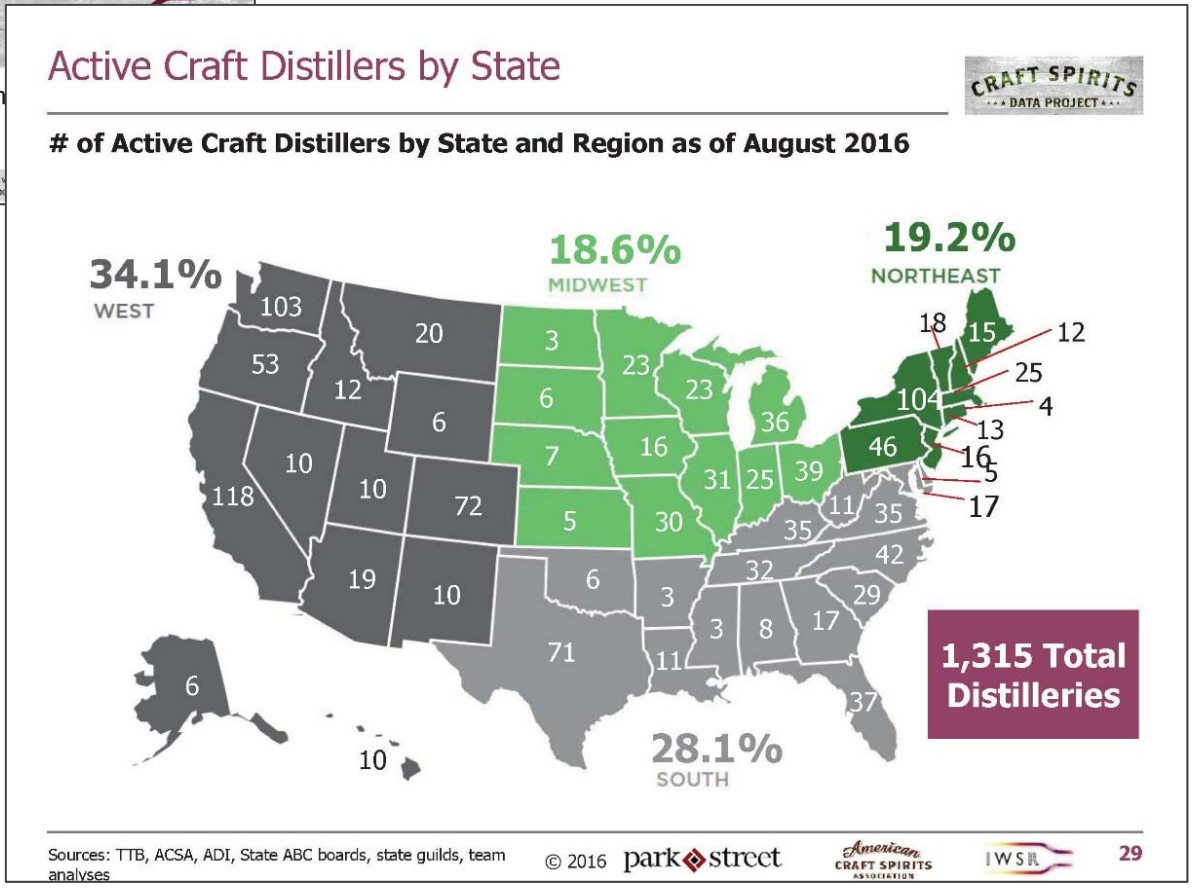




- クラフトビールだけの輸出統計はないが、2017年は3,500KL、全体の3%と推定。国内シェア（1%程度）に比べ、輸出シェアは高い。
- 現状ではK社・C社・E社など、いくつかのブランドが輸出の大半をしめると推定。輸出に力を入れるブランドが増え、海外でも日本クラフトの人気は高まっている。
- 輸出金額は、大手が平均「100円/リッター程度」であるのに対し、クラフトは平均「350円/リッター程度」と推定（税抜きのFOB価格）。その結果、金額ベースでは9%程度をしめると思われる。

参考情報：
クラフト蒸留所
の増加

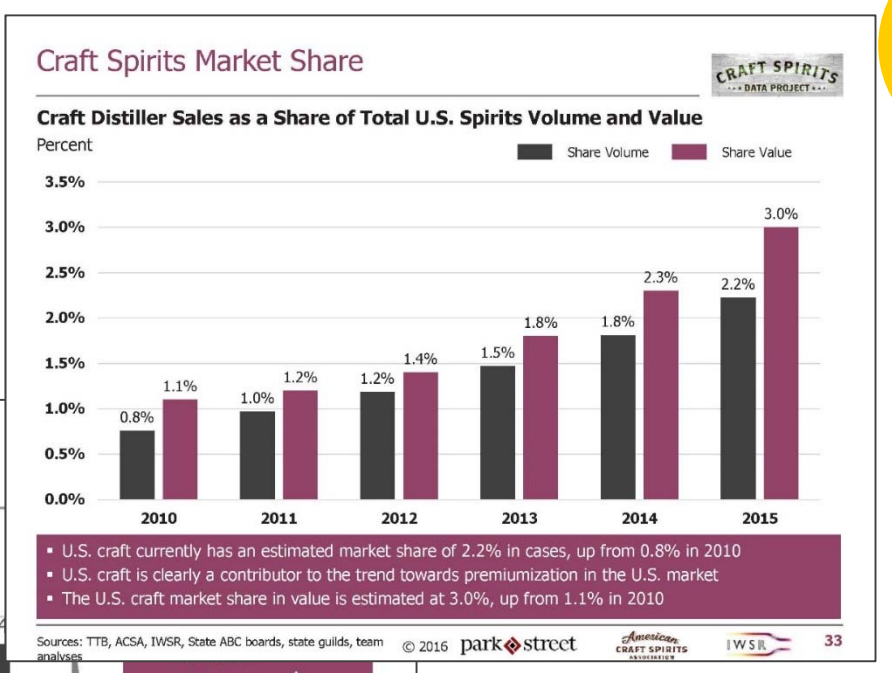
Craft
SPIRITS

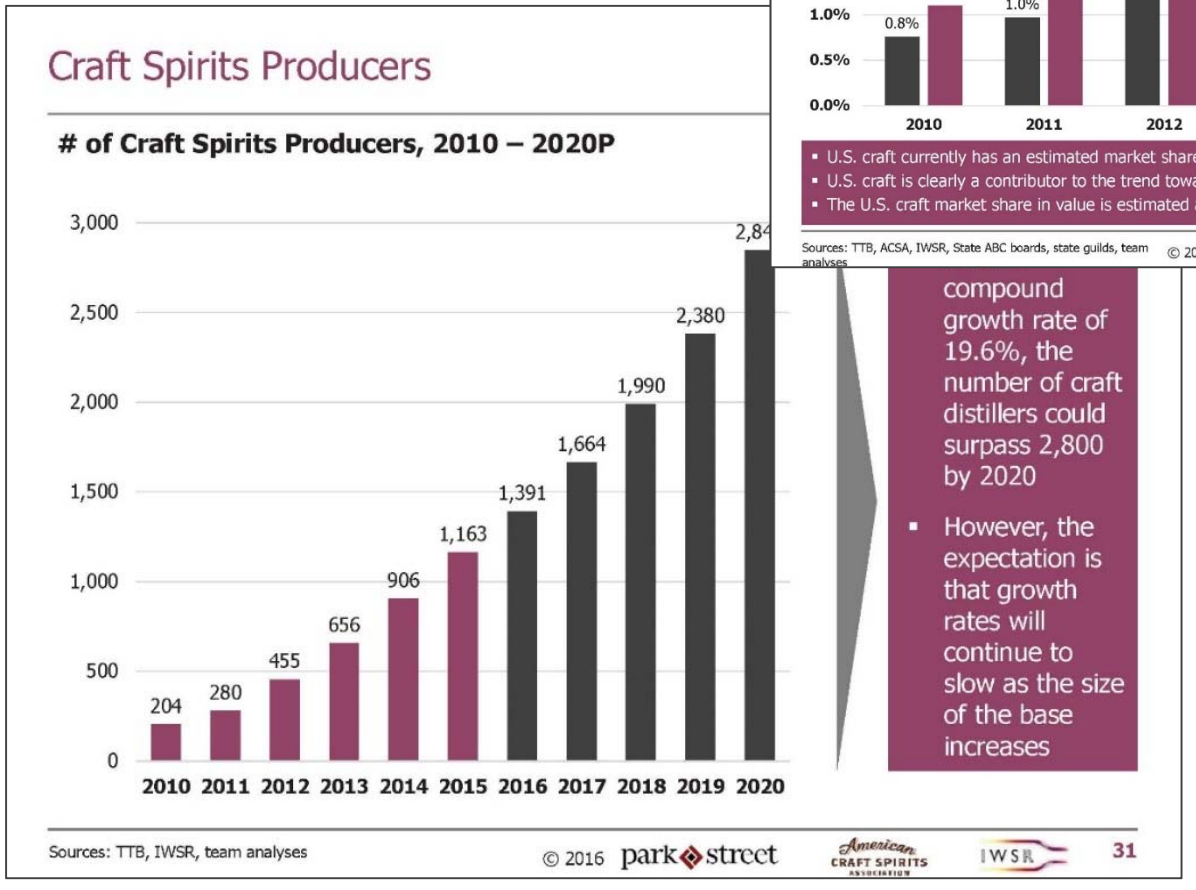


- アメリカのクラフトスピリッツ蒸留所は、2016年8月現在で1,315箇所
- 2016年のクラフトビール醸造所醸造所は5,234箇所なので、ほぼ1/4に達している

参考情報：
クラフト蒸留所
の増加

Craft SPIRITS





- ■ 2010年 204軒
- ■ 2011年 280軒
- ■ 2012年 455軒
- ■ 2013年 656軒
- ■ 2014年 906軒
- ■ 2015年 1,163軒
- ■ 2016年8月現在 1,315軒

追記■ 2017年8月現在 1,589軒

全スピリッツ販売に占めるクラフトスピリッツは量で2%、金額で3%

(end of papers 180509/tk)